

京都駅ビル芸術祭

KYOTO STATION BUILDING ART FESTIVAL

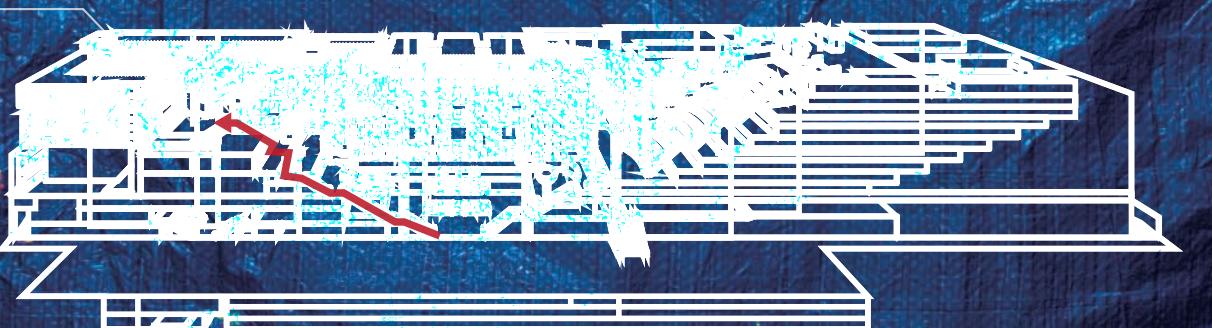
ショウカイホウセイサクシツ展

ショウカイホウセイサクシツ展

期間 二〇一九年十一月八日金曜日～九日土曜日

時間 十二時～十九時・場所 京都駅ビル7F東広場

開催地・7F東広場



京都市立芸術大学 | 京都駅ビル
Kyoto City University of Arts | Kyoto Station Building

チョウカイホウセイサケンツ展

二〇一九年十一月八日金曜日～九日土曜日 十二時～十九時 於京都駅ビル東広場

チョウカイホウセイサクシツ展は、

野 村 由 香

吉 浦 嘉 玲

堀 川 す な お

水 無 瀬 翔

私は、現実もまた虚構、つまり多くの人に信じられた虚構のひとつであり、いつでも他の虚構に入れ替わる可能性を秘めていると考える。

この視点に立ち、芸術を現実と虚構が混ざり合う人工的空間として捉え、現実と虚構の区別を取り扱うために、思弁的なアプローチを用いた芸術実践を行なっている。

思弁的な状況構築によって未知の公共性を演出し、オフィシャルな公共概念によって構築された暗黙の了解の打破を試みる。」
「分かる」ということは一体どういうことなのかを探るために近いモノを対象に様々な方法の観察・分析を繰り返す。
社会的属性から構築された偏見や他者との間ににおける解釈のズレを平面上に描き出し、「分かる」ということは「一体何な
のかを探り続けている。

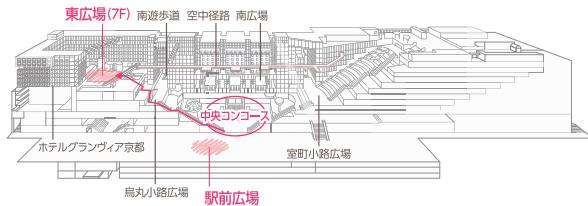
現代社会において、無意識的に断定される他者－オブジェクト－他人、自分自身－との普遍的な関係性を、一時的に切斷し、「それぞの存在がただ同時に存する状況」を主軸として制作を行う。その状況下で、それぞの立ち位置を実感し、また、意志の外に存在する自己の認知を肯定的に捉え、現代社会に漂う閉塞感に対する、柔軟な姿勢をシコウする。

それは時に、山積みのガラクタと、それらを丸ノコで解体し続ける男を前にしながら、ソファに腰掛け、冷霧を吸った時間。エレーベーターで不可解なことをする男との遭遇した時間。

人と、人が置かれた環境の、相互に影響し合う関係とその作用に着目し、表現を行っている。近年は「生活」を重要な要素として捉え、土、野菜、土管などを用い、パフォーマンスを組み込んだインスタレーションを制作する。日常で認識しない、人が環境から受ける作用と、その作用に影響される振る舞いを作品を通して現し、大きな循環に身を委ねて人が生きる態度のようなものを作り、鑑賞者とともに考察する機会を作り出そうとしている。



京都駅ビル芸術祭とは、京都駅ビル開発株と京都市立芸術大学がコラボし、京都駅ビル東広場から文化、芸術を発信するものです。本ショウカイホウセイサクシ展は、見るだけでなく、触れたり感じたりすることで、多角的に芸術を体験していただける、お子様も楽しんで参加できる展示です。※本展示の他に11月9日(土)18時～音楽ライブイベント「Upshift Vol.2」を同会場で開催予定。



チョウカイホウセイサクシツ展（入場料無料）

主催：京都市立芸術大学

共催：京都駅ビル開発株式会社

お問い合わせ

京都市立芸術大学 事務局 連携推進課 事業推進担当(月～金 8:30～17:15)

電話 075 - 334 - 2204 / FAX 075 - 334 - 2281

京都駅ビル開発株式会社(月～金 10:00～19:00)

電話 075 - 361 - 4401

ウウクツ
ホサ

